

1. 本時の位置付け

本時は、高等学校学習指導要領(平成30年告示)及び同解説【家庭編】に記載されている以下の内容の一部と関連します。

展開①	【貯める・増やす】 資産形成の基本 金融商品	家庭基礎 C(1) ア 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解すること。 <解説> ・家庭経済と国民経済との関わりなど経済循環における家計の位置付けとその役割の重要性について理解できるようにする。 ・預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴(メリット、デメリット)、資産形成の視点にも触れる
展開②	【貯める・増やす】 資産形成の基本 金利・リスク管理	
展開③	【備える】 社会保険と民間保険	家庭基礎 C(1) イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などに関連付けて考察すること。 <解説> ・収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解できるようにする ・各ライフステージの特徴と課題、家族構成や収入・支出の変化、生涯の賃金や働き方、社会保障制度などに関連付けながら考えることができるようにする ・将来を見通して、事故や病気、失業、災害などの不可避的なリスクや、年金生活へのリスクに備えた経済的準備としての資金計画を具体的な事例を通して考察できるようにする。

また、金融リテラシー・マップとの関係では、「分類3 金融取引の基本としての素養」、「分類4 金融分野共通」、「分類5 保険商品」「分類7 資産形成商品」の学習内容を含んでいます。

2. 本時の目標

- ・ 契約の意味と留意点および契約に伴う責任について理解する。
- ・ 不測の事態に備える方法としての保険と貯蓄の機能の違いを理解する。
- ・ 金融商品について、リスクとリターンの関係を踏まえ、資産形成について主体的に判断する。

3. 評価のポイント

- ・ 契約の意味と留意点および契約に伴う責任について理解している。
- ・ 不測の事態に備える方法としての保険と貯蓄の機能の違いを理解している。
- ・ 金融商品について、リスクとリターンの関係を踏まえ、資産形成について主体的に判断できる。

4. 本時の流れ ※「学習活動」及び「指導上の留意点」の#は、標準講義資料のスライド番号を示している。

	テーマ	学習活動(●は教師の活動、○は生徒の活動)	指導上の留意点
導入 5分	資産形成と消費	(問)資産形成と消費とは? (#33) ●経済活動には「消費」と「投資」があることを説明する。 ○間接金融と直接金融の違いを考える。 ※ワーク1	・「消費」「投資」どちらも使い方によって、自分の生活と社会をよりよくすることができることを説明し、関心を高め、学習の意欲や目標を持たせる。

			・間接金融と直接金融については中学校・社会や高等学校・公共で学習するため、簡単に触れる。
展開① 15分	【貯める・増やす】 資産形成の基本 金融商品	<p>(問)元本(元手となるお金)が確実に保証されて、大きい利益が期待でき、必要な時にすぐ換金できる金融商品は存在するか?(#31~32)</p> <p>●「元本保証」「預貯金と投資の違い」について説明する。(#33~37)</p> <p>○金融商品3つの観点について考える。(#37) ※ワーク2</p> <p>●安全性・収益性・流動性の3つとも◎の金融商品はないことを説明する。</p> <p>●生活費や使う予定がある資金は、預金・貯金。当面使う予定がなく増やすことを考える場合は、株式、債券、投資信託といった金融商品を購入することを検討すると資産形成につながることに気付かせる。</p> <p>●資産形成におけるリスクとリターンの関係について説明する。(#38~43)</p> <p>○リスクとリターンの関係(ローリスクでハイリターンの金融商品は存在しないこと)を理解する(#39~40)</p> <p>○「元本割れ」のリスクを軽減する方法があるや、投資を通じて社会貢献できることを理解する(#33~34)</p>	<p>・「リスク」とは英語で危険と訳されるが、金融商品の「リスク」とは、値動きの振れ幅、プラスマイナスの両方の不確実性のことをいう。</p> <p>・預金・貯金はATM利用手数料、株式・債券・投資信託は売買手数料や口座管理料等の維持費がかかることもあることを確認する。</p> <p>・ふだんの買い物と同様に、金融商品においても自分の選択・判断に基づいて買う以上、その結果に対しても自分で責任を負う必要がある。</p> <p>・#33~43は、公共の学習内容であるため概要のみの説明でもよい。</p>
展開② 15分	【貯める・増やす】 資産形成の基本 金利・リスク管理	<p>(問)2つの投資スタイルを比較しよう(#44)</p> <p>○「リスク・コントロール型」と「リスク・テイク型」の違いを比較する。それぞれのメリット・デメリットを話し合う。</p> <p>●「リスク・コントロール型」と「リスク・テイク型」の違いと長期視点に立った資産形成について説明する(#45~48) ※ワーク3(1)</p> <p>○「金利」「単利と複利」「72の法則」について理解する</p> <p>○リスク・コントロールの方法「長期」「積立」「分散」についてまとめる。(#49~54) ※ワーク3(2)</p> <p>(問)何から始めたらいい?(#55~58)</p> <p>●NISAの仕組みを説明する。 ※ワーク3(3)</p>	<p>・預金だけでは資産は増えにくいですが、一方で、株式や投資信託は預金よりもリターンを期待できるが、元本割れのリスクがある。各金融商品の特徴を理解して、自分に合った資産形成を考えさせる</p> <p>・#55~58は、発展的な学習内容であるため概要のみの説明でもよい</p>
展開③	【備える】 社会保険と民間 保険	<p>(問)人生にはどのようなリスクがあるだろうか?(#60)</p> <p>○人生のリスクを考え、発表する ※ワーク4</p>	

展開③ 10分	<p>【備える】 社会保険と民間保険</p>	<p>●人生には様々な予期せぬリスク(危険)があることを説明する。予期せぬリスク(誰にでも起こる事故や病気)に対して備える方法を考えさせる。</p> <p>○社会保険と民間保険の補完関係について知る。(#62)</p> <p>●民間保険の活用について説明する(#65)</p> <p>●社会保険を中心に具体的な例を挙げて説明する。(#61~67)</p> <p>(問)実際にある民間保険はどれ?(#66~67)</p> <p>○公的な社会保険制度では、補償が足りない場合には民間保険をどう利用したらいいか考える ワーク5</p>	
まとめ 5分	本時の振り返り	<p>●資産形成と保険の違いをまとめる(#68)</p> <p>●本時の学習を振り返り、これからの生活にどのように活かしていきたいか、ワークシートを記入させる。</p> <p>○自分のライフプランに合わせて、リスクを考慮したうえで、保険を利用したり、資産形成を行ったりして、備えることが理解できたか、振り返りながら自分の考えを整理する。 ワーク6</p>	<p>・実践に向けた計画を考え、工夫しようとしているか評価する</p>

5. ワークシートの解答・解答例

ワークシート

未来を守る 賢い資産形成とリスクへの備え

年 組 番 名 前

1. 資産形成と経済活動の関係性 ※預貯金や投資したお金は経済活動に使われる

① 間接金融 家計→銀行→企業・政府 (預貯金・投資)

② 直接金融 家計→→→ 企業・政府 (預貯金・投資)

2. 金融商品3つの観点

	安全性 元本や利子の 損失が心配なか	流動性 大きい利益が 期待できるか	収益性 必要とときに すぐに使えるか
① 預貯金	△	△	○
② 株式	○	△	△
③ 債券	○	○	△
投資信託	△~○	○~△	○

3. 「リスクコントロール型」と「リスクテイク型」

(1) リスクを抑えた安定的な資産形成に向いているのはどちらか

(2) 経済のリスクをコントロールする方法3つ

(3) 株式や投資信託への投資による利益が非課税になる制度

4. 人生にはどのようなリスクがあるだろうか？考えられるリスクとその備えを話し合おう

リスク	どのように備えるか
病気やケガ	公的医療保険 生命保険
老齢	公的年金保険(老齢) 公的介護保険 DeCo 民間保険
失業	雇用保険
家計を支えていた人の死亡	公的年金保険(遺族) 生命保険

5. 実際にある民間保険はどれ？

6. 授業の振り返り

(1) わかったこと・劇についてのこと

(2) 今後、自分の生活にどのように活かしていきたいか

6. 参考資料

資産形成の基本:NISA 特設ウェブサイト:金融庁

<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/invest/index.html>

J-FLEC に相談する <https://www.j-flec.go.jp/feature/consult/>

社会保険適用対象となる加入条件 | 厚生労働省 | 社会保険適用拡大 特設サイト

<https://www.mhlw.go.jp/tekiyoukakudai/koujirei/jigyonushi/taisho/>

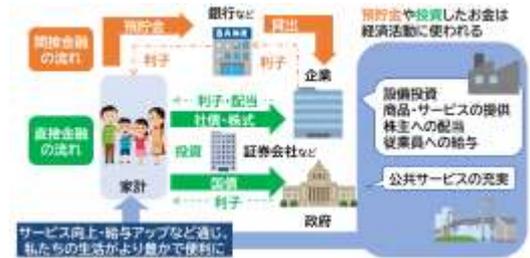
未来を守る 賢い資産形成とリスクへの備え

年 組 番	名前
-------	----

1. 資産形成と経済活動の関係性 ※預貯金や投資したお金は経済活動に使われる

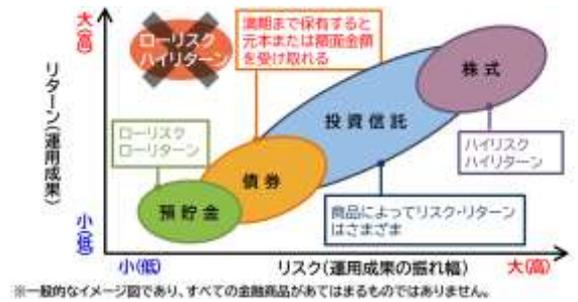
どちらかに○をつける

①	金融	家計→銀行→企業・政府	[預貯金 ・ 投資]
②	金融	家計 →→→ 企業・政府	[預貯金 ・ 投資]



2. 金融商品 3つの観点

	安全性 元本や利子の支払いが確実か	収益性 大きい収益が期待できるか	流動性 必要なときにすぐに換金できるか
①	◎	△	◎
②	△	◎	○
債券	○	○	△
投資信託	△~○	○~◎	○



3. 「リスク・コントロール型」と「リスク・テイク型」

(1) リスクを抑えた安定的な資産形成に向いているのはどちらか

(2) 投資のリスクをコントロールする方法3つ

(3) 株式や投資信託への投資による利益が非課税になる制度

4. 人生にはどのようなリスクがあるだろうか？考えられるリスクとその備えを話し合おう

リスク	どのように備えるか

5. 実際にある民間保険はどれ？

6. 授業の振り返り

(1) わかったこと・身についたこと

(2) 今後、自分の生活にどのように活かしていきたいか